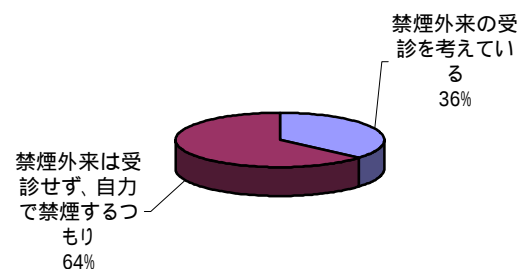


（題名）当院における敷地内禁煙化に向けての取り組み

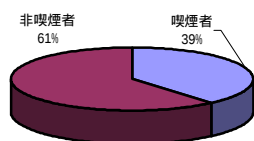
～全職員向けアンケート結果の分析を踏まえて～

宮古島徳洲会病院 外科 禁煙外来 打出 啓二

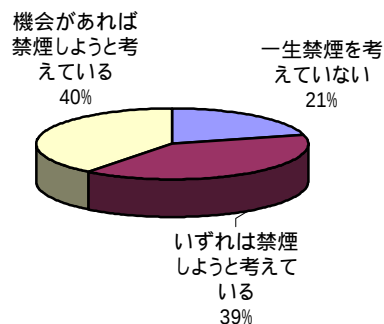
平成 18 年 6 月から、ニコチネ TTSR が条件付で薬価収載されるのにあわせて、当院でも、病院敷地内禁煙に向けての検討が行われた。そこで、同問題を検討する上で、全職員向けアンケートを実施し、その結果を踏まえて、敷地内禁煙に向けた取り組みをどのように進めていけば良いかを検討したので報告する。



アンケートは無記名で回答。回収率 97% (111/114)。
結果：喫煙率は 39%

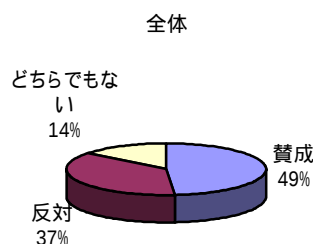


喫煙者のなかで機会があれば禁煙をしようと考えている人は 79% いる一方で、一生禁煙するつもりはないと考えている人も 21% おり、健康に対する認識の低さも露呈された。

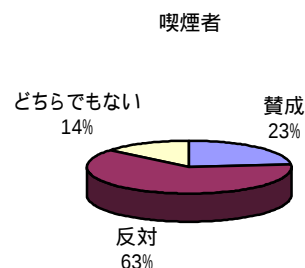


禁煙を考えている人の中で、禁煙外来の受診を考えている人の割合は意外と少なく 36% にとどまっていた。

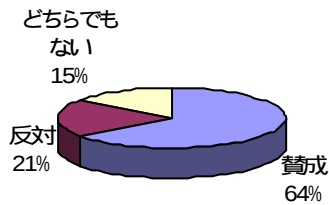
病院敷地内禁煙について、全体で、賛成が 49%、反対が 37% であった。



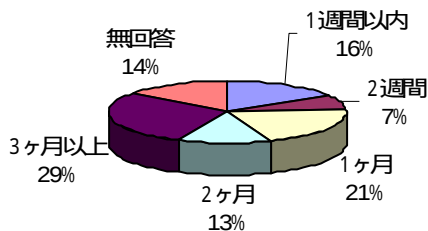
病院敷地内禁煙について、喫煙者の反対が 63%、非喫煙者の反対が 21% であり、非喫煙者のなかでも反対する人の割合が意外と高い印象を受けた。



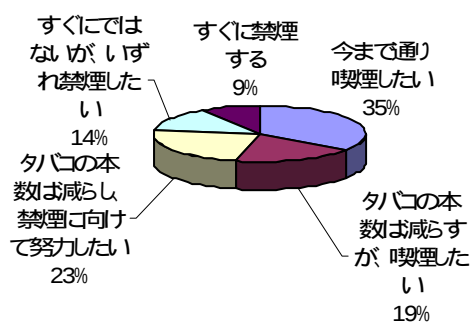
非喫煙者



敷地内禁煙を実施するにあたり、職員への周知期間については、3ヶ月以上との回答が29%と最も高く、次いで、1ヶ月、1週間以内の順であった。



喫煙者に対して、病院が敷地内禁煙になったらどうしたいか、との質問で、今まで通り喫煙したいと答えた人は35%である一方、禁煙する又は禁煙に向けて努力するとの回答も47%あり、敷地内禁煙が職員の禁煙を後押しすることが予想された。



これらの結果を踏まえて検討を行ったが、当院では、
 病院幹部が喫煙者であるという事 民間病院であるので経営幹部の意見が尊重されやすい事 民間病院であるがゆえ、禁煙活動を強固に推進する事により、関係する職員が不利益を被る可能性があること 敷地が広いため、敷地内禁煙にした場合に職員が勤務時

間に喫煙する事が実質上不可能になる事、その他にも様々な理由により、平成19年2月末の時点では、病院敷地内禁煙は実施されていない。

当院の今後の取り組みとしては、病院職員への啓蒙活動 病院幹部の意識改革 敷地内禁煙を検討する委員会の設置 などが必要と思われる。

民間病院だからこそ、病院幹部の意識改革さえできれば、病院敷地内禁煙化は意外とスムーズに行える可能性も秘めていると思われる。他病院の事例も参考にし、病院敷地内禁煙化の早期実現に向けての取り組みが必要と考える。